

# アボミ・カラヴィ地区、アカサト行政区 アジャグボ公立中学校のための 4教室の校舎2棟、8人用トイレ、および 地下水の穴と水給塔の建設報告1

2019年9月11日に私たちはアジャグボ中学校に住民と一緒に総会に集合しました。沢山の人が集まっています。例によって、家族や友人が元気かという挨拶を取り交わしました。それから、2校舎、トイレ、飲料水の供給も含まれている契約について話し合いが続きます。契約の中には親御さんと地域住民の義務も認めてあるので、質問がありました。全員が契約内容をすべて了解する意図でした。最後に契約に全会一致の可決がなされました。これによって建設過程が開始したわけです。私たちは、明日集まって、具体的に校舎をどこに建てるかきめる約束をしました。アジャグボでは現在地区改造が大々的に行われています。これはどういう意味かということ、学校敷地内に住み着いている人たちが追い出されることです。けれども私たち会としては誰かを追い出すなんて、あり得ません。そこで何も問題のない建設地点を選びました。そして測量者にこの仕事を助けて下さるよう頼みました。





場所が決まると、住民は基礎用の穴を掘り始めました。



大事な基礎の上に壁が作られました。基礎壁はすぐに下の鉄筋のところまで達しました。生徒たちの目には建物が地面から伸びていくようでした。



雨季にはセメント運搬が大問題でした。道路や校庭でトラックが地面に沈み込むからです。



けれども雨もこの工事を停止させることはできません。



村の建築家が、校舎を少し高くしてほしいと希望したので、破風を載せる場所にさらに鉄筋が必要となりました。

破風ができました。壁は屋根を葺く前に2週間乾燥させねばなりません。住民と生徒たちはこの間に教室に砂を運び入れました。



二つの建設チームが建物を建てている間にもう一チームは給水塔に取り掛かっていました。地下水の穴は地面があまり固くないので手で掘りました。



壁が乾燥しきると、大工たちが屋根を作り、アスベスト無しの板材で屋根を葺きました。ベナン政府の新しい規則では灰色の屋根板は禁止されています。



ドアと窓枠が据え付けられました。それから漆喰塗り作業が始まります。





校庭に長すぎる通路を切り出す代わりに新しい方法を試してみました。

給水塔にも漆喰が塗られました。



最後にトイレが作られました。トイレの向こう側は校庭の切れる地点で、向かいは藪が広がっているので、トイレは8人分並べて作られました。



給水場には苔が生えないようにタイルを敷き詰めました。



最後にペンキ屋さんが仕事に来ました。



これで開校式ができるばかり  
となりました。

